

浪江町復興計画策定委員会（まちづくり検討部会）議事概要

1. 日 時 平成25年7月11日（木）13:00～15:05

2. 場 所 福島県男女共生センター 1F 研修室

3. 出席者

まちづくり計画検討部会 委員 39名

オブザーバー 5名

ファシリテーター 2名

4. 議 事

(1) 開会

(2) 部会長、副部会長選出

(3) 部会長あいさつ

(4) 議事

①事務局説明

議題1 まちづくり計画策定に向けて【資料 まち1】

②自己紹介

議題2 部会委員自己紹介

(5) その他

(6) 閉会

5. 議事概要

○部会長、副部会長選出

事務局（復興推進課 金山係長）

- ・事務局より部会長、副部会長選出について説明します。
- ・浪江町復興計画策定委員会設置要綱の第8条 部会長は委員長が指名することになっております。また、副部会長は部会長が指名することになっております。
- ・鈴木委員長より部会長は浪江町民から選出する旨の確認し、事務局案を作成、委員長に確認を受けました。それでは発表します。部会長に大波大久委員にお願いします。次に副部会長ですが、事前に大波委員に確認を頂いております、戸川聡委員と近藤京子委員にお願いします。

○部会長あいさつ

なみえ絆いわき会 大波大久部会長

- ・午前中は会議お疲れさまでした。大波と申します。よろしく申し上げます。
- ・昨年は大きく6つの部会に分かれて復興計画について議論しましたが、最終的に結論までは到達しなかった。

- ・今回のまちづくり計画は浪江町を復興、再建させる検討委員会であると考えている。まちづくり計画より先に生活再建を議論するという意見もあるが、私としては、まちづくり計画を進め、浪江町を早く復興させたいと考えている。
- ・現在の浪江町の状態が見えない中でまちづくりを計画しているが、何回かは浪江町の現地で土地利用などの議論をしたいと思っている。
- ・町民のみなさんに納得して頂けるまちづくり計画を策定する為、委員のみなさんのご協力が必要ですのでよろしくお願いします。

○質疑応答

委員

- ・復興まちづくり計画策定体制の中に行政区長の意見を反映させる体制を整えて頂きたい。
- ・また、行政区長としては、行政区内で住民の意見を聞く場合は、1カ月前までに資料が配布できないと難しいと思う。
- ・検討部会で中身の濃い議論をする為にも部会資料についても事前配布をお願いします。

事務局（復興推進課 金山係長）

- ・行政区長の意見をどう反映させるのかについては、事務局としてはポイントポイントで行政区長会などで提示を考えていたが、ただいまの意見を受け反映のしかたを検討していきたいと思う。
- ・資料の事前送付については中身の濃い議論をする為、内容把握は必要と認識しているので、全部は無理かもしれないが、出来る限り対応していく。

委員

- ・前は「復興計画」を提言したが、今回は新たに「復興計画」を策定するのか、前回の「復興計画」を基本にして策定するのかを教えてください。

事務局（復興推進課 金山係長）

- ・前回策定された「復興計画」を基本に、個別計画としての具体的な事業、場所などを検討していきたい。

委員

- ・資料の事前配布については前回の復興計画策定時からお願いしているのに、今回の会議についても当日配布である。事前配布は大変なことは判るが、私としては復興について充実した議論をするために内容を把握した上で議論していきたいと考えている。
- ・一次計画と今回の計画とはどこが違うのか。具体的に分かりやすく表現してほしい。
- ・また、まちづくり計画に文化の項目が無いので、文化について記載をお願いします。被災後の祭りなどに多くの人びとが集まり互いの無事を確認している。浪江町の文化をまちづくり計画に反映させ、精神的なことも含めたまちづくり計画を策定することを意思表示してほしい。

事務局（復興推進課 宮口課長）

- ・資料の事前配布については極力対応していきたいと考えている。
- ・今回策定する復興計画は前回策定した復興計画を基に個別計画を策定するものと考えている。
- ・文化については議論して考えていきたい。

委員

- ・具体的には復興計画のどこに文化について記載されるのか。

事務局（復興推進課 金山係長）

- ・配布した資料では読み取れないかもしれないが、生活環境に文化は含まれていると考えている。浪江町の風土、文化はまちづくりの大きな位置付けに関わるので議論して考えていきたいと思う。

委員

- ・文化について資料の中に記載して欲しい。

事務局（復興推進課 宮口課長）

- ・次回からの協議の中で加えていくということでご理解いただきたい。

委員

- ・外部ファシリテーターの役割がなにか教えてほしい。
- ・スケジュールでは、2月に成果が出来上がることになっているが具体的な成果品は図面など可視的なものを目指すのか。
- ・8回予定されている会議で、問題点を整理し意見を集約して可視的な成果を策定するのは難しいと思うが、どのように考えているのか教えてほしい。

事務局（復興推進課 金山係長）

- ・外部ファシリテーターについては、部会の進め方の中で、議論を重ねていただき難しい課題の議論をする為の道先案内の役割をするプロと考えていただきたい。
- ・成果については、個別の事業をあとはやるだけという具体的成果として作成するには1年では難しいと考えている。浪江町の復興に対する拠り所となる基本計画を作ることを考えている。
- ・また、事業化に向けて着手できる事業から進めたいと考えており、すぐにできるものについては、事業化の申請書類としてまとめることを考えている。
- ・可視的な成果としては、今の段階でははっきりとは言えないが、模型、パースなどを作成することも考えている。
- ・スケジュールは、実施計画レベルまでの作成は難しいと考えており、基本計画レベルのスケジュールを考えている。

委員

- ・疑問がある。先ほどの浪江町復興ビジョンに対し、昨年策定した計画を項目整理して担当者で予算を付けて場所を決めると理解しているが、前提条件が理解できない。
- ・低線量区域を先行してまちづくりを進めることとしているが、周辺の高線量区域の除染を進めなければ意味がない。高線量区域から低線量区域へ放射性物質が流れてくる。
- ・年間1～5ミリシーベルトの話が出たが、若者達は町に戻らないのに高齢者の為にまちづくりをするのか。
- ・除染を実施すれば線量は半分くらいになることがわかってきた。そういうことを前提条件としてまちづくり計画を策定するのではないか。具体的な説明をお願いしたい。

事務局（復興推進課 金山係長）

- ・役場内で議論していても、具体的に帰還できる条件については問題として認識している。
- ・現在、国に対してどうなれば安全を判断できるのか聞いている状況である。
- ・一方で避難区域解除に関しては、浪江町が決断することになるが現状ではまだ煮詰まっていない。
- ・浪江町のまちづくりは、高齢者が先に帰還するケースも考えられる。スケジュール、前提条件などを議論して生活環境の再生に向け、一つ一つ議論していきたいと考えている。

委員

- ・浪江町の除染は国が実施することになっている。除染を実施すれば線量が半分になる場所もあると思う。除染計画も考慮して具体的なまちづくり計画を策定するのではないのか。
- ・国の除染スケジュールが変われば、浪江町の復興スケジュールも変更になる。今の状況なら昨年度に策定した計画でよいのではないのか。国まかせではなく、町として出来ることがあるのではないのか。

大波大久部会長

- ・今の意見は私も同感である。これも含めて検討部会でみなさんの知恵をどんどん出して議論し、町が国、県へ進言する方向へもって行ってもらいたい。

事務局（復興推進課 宮口課長）

- ・低線量区域の除染を先行して実施し、まちづくり計画を進めていきたいが、問題点は数多くあると認識している。
- ・問題点については、部会で議論して解決につなげていきたいと思う。

○グループ討議

【Aグループ】

○自己紹介

委員

- ・今は横浜に住んでいる。平成23年に引っ越しし、浪江町には帰らないと決めた。
- ・浪江町の復興のため、自分に何が出来るか、外に出たから関係ないということではなく、逆に都会から見たまちづくり、浪江町から離れても良いまちづくりができるように考えていきたい。

委員

- ・サポートセンター3か所でイベント、デイサービスをおこなっている。
- ・今年度は4月から県農業振興課からもサポートを受け、南相馬で野菜づくりを行っている。県の方も積極的であり、20km圏内の野菜をどうしたら出荷できるか等考えている。
- ・当面は町に戻らない予定であり、30km離れたところから仕事をするために通う。

委員

- ・浪江小学校の近くに住んでいて被害にあった。
- ・震災後、君津に移り、現在は二本松に住んでいる。
- ・娘が2人いるが、孫が生まれたこともあり、君津に家を持ち、20年間は君津に住みたいと考えている。
- ・浪江町に戻りたい。

委員

- ・浪江を離れて30年経つが浪江が好き。
- ・本業をやめて復興に専念している。浪江のために残りの人生を使おうと思っている。特に文化の復興なくして町の復興はあり得ない。
- ・なみえ復興大学を立ち上げ、請戸の町を模型で再現したり、請戸出身の人達に請戸の映像を見てもらったり、いろいろな活動を行っている。これからもこのような活動を続けていきたい。
- ・方言や地名を大事にしたい。HPを作って発信していくので是非見ていただきたい。

委員

- ・地区で160人亡くなっている。
- ・家に帰りたいが帰れない状況。
- ・高線量の除染をどのようにやったら良いのか、短い時間で帰るにはどうしたらいいのか。

委員

- ・町に帰るという考えでいたが、帰れなくなってしまうことが心配。
- ・家を修理したくても大工さんがいなくてお願いできない。住宅の除染をしても、天井裏等線量が高いところがあり、家を壊さないに住めない。
- ・そのようなことを含めて、2, 3年で戻れるようにするにはどのようにしたら良いか。また、帰りたいのは高齢者が多く、夫婦なら良いが一人だと暮らしていけない。老人ホーム等、昼間生活できる施設が必要。高齢者の対応をどうするのか考えてほしい。

委員

- ・4月から中浜行政区長をやっている。
- ・今は福島市の仮設住宅に入っており、目標のない毎日を過ごしている。中浜地区は壊滅的な被害を受けているので、1日も早い復旧、復興をして頂きたい。

委員

- ・子供が就学していて数年で就職するという状況であるが、子供を連れて浪江町に帰りたいと思っている。
- ・皆さんの意見を浪江町のまちづくりに活かしていきたいと思う。

委員

- ・福島に避難している。
- ・子供が2人いて、下は大学2年生であり、数年で就職することになる。
- ・家の修理に時間がかかること等、子供達も浪江町に帰るのは無理かと考えている。
- ・現在は生活支援課で借上げ住宅等を担当している。今年4月から町に立ち入れるようになったが、借上げ住宅の老朽化や仮設住宅の入居時期の制限等、課題が多い。借上げ住宅の契約の更新ができない等、住民トラブルも出てきており、そのような対応を行っている。

委員

- ・高瀬出身。
- ・生活できる条件が整えれば帰る。
- ・町の復興をあきらめて、別のものにお金を使ったら…という人もいるが、ふるさとを見捨てたくないと思っている。

委員

- ・18歳まで浪江町で育った。18歳で町を出て、建築設計をやってきた。
- ・町を出てしまっているけど、住めるところは住めるようにしたいし、自分も町に住めるなら、また帰っても良いという気持ちはある。
- ・建築設計的にみると、やる気、お金があれば、事故が起きても外に被害が漏れない原発施設を造ることはできると考える。
- ・ハード屋として、リアリティを持たせた提案をやっていききたい。できる限りお手伝いをしたい。

委員

- ・臨時職員も含め 20 名の職員と一緒に、浪江町内の本庁で勤務している。南相馬の仮設ホテルから毎日通っている。
- ・浪江町の現状としては、上下水道が使えず役場の外に仮設トイレを設置し、空調も使えないため、毎日汗だくの中で仕事している。先日も熱中症でひとりが緊急搬送されたので、皆さんも一時帰宅する際は十分気を付けてほしい。
- ・両親は埼玉の施設に入っている関係で、家族は皆埼玉にいる。請戸の出身であり、どこに帰ったら良いかが悩み。
- ・仕事の面で皆さんを応援していきたいと考えている。

都市再生機構(UR) 佐光清伸オブザーバー

- ・今回はオブザーバーとして参加させて頂く。
- ・都市機構は震災後、主に宮城県と岩手県の復興まちづくり事業のお手伝いをさせて頂いている。具体的には災害公営住宅の設計・施行、土地区画整理事業等の市街地開発事業等を市町村から受託するという形で支援している。
- ・事業の実施者の視点で皆さんのお役に立てるように参加させて頂きたいと考えている。

委員

- ・請戸の漁業協同組合に勤めている。
- ・請戸漁港については、災害査定が済み、復興に向けた第一歩が踏み出せたかなと感じている。
- ・相馬地区の方でも試験操業がされ、タコ等の水揚げがされている状況であり、そのような流れの中で、請戸の復興が浪江町全体の復興の一助になればと考えている。

委員

- ・愛知県から通っている。
- ・請戸出身で、避難解除準備区域の通行証を頂き、町に行ってきたが、何もない、何も変わっていなかった。でも、請戸漁港が復興に向かうことを聞いて、ほっとしている。
- ・浪江町には絶対帰りたと思っている。
- ・請戸は全部なくなってしまったが、請戸の文化は残っており、安波祭（あんばさま）の中で行われている子供達の踊りは震災後も続いている。明治神宮や出雲大社に招待され、子供達は皆バラバラになってしまったけど、ふるさとのために一生懸命踊っており、とても感動した。
- ・請戸は復興に向けて動いている、何かが起きるかなと感じている。
- ・昨年度は委員会の中でいろいろな議論をしてきたし、ふるさとを想いながら熱く語ってきたのに、今回の資料においては、たった二行しか書かれていない。今回は、昨年度語ってきたことの回答を少しでももらえんと思っていたのに、とても残念で悔しい思いをしている。これから何に対して頑張ったら良いのか、そんな気持ちでいる。

事務局（復興推進課 金山係長）

- ・今日の説明では不十分であったが、津波被災地の計画については、別の部署で本格的に動き出している。

委員

- ・そのことについて説明をしてほしかった。請戸には絶対帰るので、復興に向け、これから頑張っていきたい。

委員

- ・子供が4歳、7歳で、子供自身では判断できない歳であるが、7歳の子は被災時のことは憶えていて、話したくないという状況。
- ・子供達に自分が避難民であるという意識を残したくないため、今の場所に留まって生活することを考えている。
- ・浪江町は大好きで、浪江町に戻って15年過ごしてきたが、年数が経てば経つほど帰れない状況になると感じている。また、今住んでいる町は便利であり、わざわざ浪江町に戻る必要があるのかと感じている。
- ・浪江町のまちづくりについて、今は見えていない状況ではあるが、手を尽くして頑張りたい。

委員

- ・麹関係の仕事をしている。
- ・昨年末までは南相馬の借上げ住宅にいたが、今は仙台市に住んでいる。
- ・復興については皆スタンスが違うと思うが、住民を戻さない方法を前提として、町の復興を考えるとということもあるのではないか。住民感情の対立もあり、戻らないと決めると冷静にいろいろなことが見え、いろいろなことが考えられるのではないか。
- ・町に戻らないと言った上で戻ることと考えてほしい。これからいろんな話ができればいいなと思う。

高崎経済大学 櫻井常矢ファシリテーター

- ・今回はファシリテーターとして進行のお手伝いをさせてもらう。
- ・震災後、浪江町の広報のこころ通信等を通して、遠方で避難している人等、皆さんの声を届けている。
- ・今日だけは自分の意見を発言させて頂くが、計画の議論はすごく難しい。町に戻りたいと考えている人は高齢者が中心であるが、そのために町をつくっていくのか、それとも、20~30年後のまちを考えてまちづくりを行っていくのか等、どのような方向性で考えていくのか難しい。
- ・次回の議論はとても大変だと考えているが、皆さんの思いを引き出し、有識者の方々の助言を聞きながら、皆で復興に向けてやっていきたいと考えているので、協力をお願いしたい。

福島大学 鈴木浩有識者

- ・今回の部会は、低線量地域を復興拠点としたまちづくりを考えていきたいと考えている。浪江町は津波災害だけでなく、原発災害も受けており、両方を受けた町はどのように復興していったら良いか、難しい課題がある。
- ・また、仮設住宅は入居期限がある等、コミュニティの存在を無視しており、期限が切れた後、災害公営住宅にスムーズに移ることができるのか疑問が残る。そのようなことを考えると、町外コミュニティという考え方は必要であり、全てが町外へということではないが、選択肢のひとつとして、町外コミュニティを残しておく必要があり、災害公営住宅も町外につくった方がうまくいくということも考えられる。
- ・浪江町の復興拠点となるエリア（避難指示解除準備区域）は、部分的であり、土地を持っている人だけでなく、それ以外の町民に便益があるようなまちづくりを考えていく必要があるのではないか。
- ・町内に帰らない方などが浪江町を体感できるような取り組みとして、短期間の滞在ができる「ふるさと住宅」についても整備が必要ではないかと考えている。

【Bグループ】

○自己紹介

元青年会議所 戸川聡副部長

- ・現在は、福島市に住んでいる。チェルノブイリでの事故後、スラブチッチでは 20 年前にできた街が今も続いている。ウクライナでできて福島でできないわけがないので頑張っていきたい。

委員

- ・放射線に対する考え方は人によって違う。その中で判断して、帰りたい人、帰りたくない人などいろいろな人がいると思うが、何が正しい、正しくないは言えないと思う。浪江をどのように戻していくか難しい問題であると思うが、知恵を出し合って考えていきたい。

相双建設事務所 芳賀英幸オブザーバー

- ・4月に赴任してきた。相双建設事務所の立場で、オブザーバーとしてまちづくりの話に加わっていききたい。

委員

- ・一番疑問なのは、この部会で何を検討するのかということ。今日はそれを明確にして帰りたい。前回6つの部会を今回2つにした中で何を議論するのか。

委員

- ・言いたいことがあって委員になった。前区長から引き継いで代わりに出ている。

委員

- ・委員に応募したのは除染を進めたかったからである。国の対応には納得していない。我々が主導権を持って進めていくしかないと思っている。

委員

- ・町でインフラの復旧事業を担当している。復旧事業の現状についてお話していきたい。

委員

- ・25年前のビキニ諸島水爆実験でも帰島できない島がある。その講演会が今月27日に開催され、福島の実状を講演することになっている。

委員

- ・現在相馬市に住んでいる。漁協請戸支所の職員。平成28年度には請戸漁港が復旧予定となっている。船も20隻ほど残っている。漁協職員として請戸港を元の姿に戻す使命感を持っている。ただ、漁業の復活のためには、他の産業の再生が必要との考えから参加している。

委員

- ・前回の策定委員会で、机上の話は整理された。まず、できるものから進めて復興の足がかりとしていく必要がある。

委員

- ・現在青年会議所の理事長。誰もが住みたくなる浪江にしていきたい。

委員

- ・どんなに時間がかかっても元の浪江に戻していきたい。町は町、企業は企業などそれぞれの立場でできることをやっていけばよいと思う。

委員

- ・室原に住んでいた。帰還困難区域になった時にはショックを受けた。スピード感を持って復興を進めてもらいたいと思い委員に応募した。前向きな議論をしたい。

委員

・役場職員の前に町民でもある。飛び地の発想でも町が存続する方策が必要。浪江の現状を国民に納得させながら進める必要がある。浪江町の中で対立している場合じゃないと思う。心を一つに進めていきたい。

委員

・年老いた父・母がおり、自分の家族を含めた命がけの取り組みであると思っている。現状をなんとかしないといけない。皆さんといっしょにがんばっていきたい。

都市再生機構 (UR) 松永知己オブザーバー

・オブザーバーとしての参加。URは岩手・宮城・福島で復興公営住宅のお手伝いをしている。それらの経験を踏まえ、アドバイス等していきたい。

委員

・わからないことが何点もあり参加した。元の働く場は避難解除準備区域、元の住まいは帰還困難区域という矛盾を抱えている。これらの矛盾も解決していきたい。

委員

・主人からまた参加するのかと言われながらも今回参加した。自分としても皆さんと顔を合わせる機会を持ちたいと思っていた。30~40年スパンで考えていくことになると思う。自分もどうしていいかわからないが、浪江は無くしちゃいけないと思っている。少しでも自分の意見を計画に反映できればと思っている。

委員

・町は、国・県のせいにするには止めた方がいい。自分の家は線量が低いので生活できる状態なのに帰れない悔しさがある。川の除染について復興局に聞いたが返答がない。川の放射能汚染の拡散防止を行わないと帰れない。帰りたい人が1日も早く帰ることができるまちづくりにしたい。

委員

・前は町外コミュニティ検討部会に参加した。戻れるとなった時に誰も帰らなかったら意味がない。今回の会議の進め方もめちゃくちゃ。町はもっと勉強して欲しい。

委員

・今回の計画は、世界的にも例を見ない計画になると思う。困難な検討になるが皆さんの知恵を借りて進めたい。

コミュニティ・ワークス 青木ユカリファシリテーター

・ファシリテーター3名が会議の進行に協力していくのでよろしくお願いします。会議がうまく進行できるように会議の進め方を含め工夫していきたい。

住まいの研究所 鎌田一夫有識者

・自分は建築技術者。住宅地や団地の設計、再開発事業等に携わっていた。今回の震災復興においては、女川・石巻・東松島において行政・市民の両サイドから関わっている。ただし、原発被災は質がまったく違うので、これらのノウハウが使えるとは思っていないが、皆さんといっしょに考えていかなければいけないと思っている。今回の部会で議論するのは、復興計画（第一次）の中の「ふるさとの再生」がメインであると思っている。

○意見交換

委員

- ・今回の検討部会で何をやるのかということの理解としては、昨年度は6つの部会をつくって議論したが、今回の部会は、浪江町という地域に限定したふるさとの再生を検討することだと思う。具体的には、例えば教育の問題にしても、浪江の小学校の問題はこの部会、二本松の小学校の問題は進行管理部会という分けになるのではないかな。

事務局（復興推進課 宮口課長）

- ・町としても、今回の検討部会と町外コミュニティの関係等、もやもやしていた部分があったが、この部会で検討するのは浪江町という地域に限定した話ということはその通りだと思う。

委員

- ・汚染物質の仮置き場については、行政区毎に動いて決めるとのことだが、進んでいるのか。復興公営住宅については、桑折町の職員が浪江役場に来て調整しているようだが、本来、浪江職員が桑折町に出向き積極的に進めるべきではないか。自分は行政に不審感を抱いている。今回新しい計画を作るのではなく、復興計画（第一次）についても継続して答えを出して欲しい。

事務局（復興推進課 近野副主査）

- ・仮置き場についてはシビアな問題であり、地権者との関係もあるので、決まる前に公表するのは難しいため、なかなか進捗が見えづらいと思うが進めている。今回の検討部会では、新しい計画を作るわけではない。復興計画（第一次）を踏まえ、具体的にどのようなまちづくりを行うのがよいかを考えていきたい。

委員

- ・このスピードで進めていたら、民間企業であれば罰金になる。町だから許されているのではないかな。

委員

- ・仮置き場の問題は環境省が悪い。もう決まっている所もあるが、発表できないでいる。話がまとまった所から進めれば良いと思う。

委員

- ・仮置き場は、室原だけで4ha必要になる。自分は土地を貸してもいいが、農地をばらばらに持っているので、仮置き場として使えない。また、候補地も中には貸さないという人がいるのでなかなか話がまとまらない。
- ・帰還困難区域でのモデル除染が始まるが、室原地区は地理的な条件が悪いため実施してもらえないのではないかと推測している。
- ・自分たちでできることとして、草刈りはやればできる。町はだめというが、短時間であれば被ばくも少ない。とりあえず出来ることをやってみないと前向きになれない。

委員

- ・先ほどの検討部会の目的の話は違うのではないかな。進行管理部会の目的にも「町の復旧・復興のため」と書かれている。

事務局（復興推進課 宮口課長）

- ・進行管理部会は、復興計画に記載されている内容の進行管理を行うことを目的としている。

委員

- ・部会の名称も適切ではないのではないかな。

委員

- ・町民アンケートは、記名式とのことなので、アンケートというよりは調査に近いのではないかと。そのことをしっかり伝えないと、いい加減に回答する人がいると思う。

事務局（復興推進課 近野副主査）

- ・今回のアンケートは、復興公営住宅の必要戸数を把握することを主目的に実施するもの。住宅の条件を示したうえで記名式で聞くので、調査に近いものとなる。

委員

- ・今回の計画は、復興計画（第一次）の具現化が目的か。それとも第二次の計画を立てるものか。また、次回の部会資料の事前配布は間に合うのか。

事務局（復興推進課 近野副主査）

- ・今回の計画は、復興計画の第二次の計画ではない。復興計画（第一次）の具体化検討が目的である。次回部会については、具体的な議論を始めることになるが、実質的に最初の話し合いと考えることから事前の資料は特に送付しない予定である。

以 上